

2013年下期の景気見通し  
——安倍カンフル剤から治癒剤への道を探る——

一般社団法人 日本経済協会理事長 田村 正勝  
早稲田大学教授・経済学博士

- (一) 企業利益と株価の回復——高水準は何時まで続くか
  - (1) 輸出産業の為替差益増大——株価はなお上昇か！
  - (2) 非製造業の高利益は限界か——円安のマイナス効果
  - (3) 輸入インフレと株価の上昇——スタグフレーションへの恐れは！
  
- (二) 貿易赤字の拡大と経常収支黒字の激減
  - (1) 円安でも輸出の伸び限界——海外生産とM&A
  - (2) 輸入物資の価格高騰と輸入量の増大——円安、原燃料輸入
  - (3) 所得収支黒字で貿易赤字カバー——製造業人口が半世紀前の水準へ
  
- (三) アベノミクスのカンフル効果から本格的回復への条件
  - (1) シルバー消費、厳冬消費の限界と株主主義経営の反省から賃上げへ
  - (2) 川上インフレ・川下デフレの修正——経済構造の転換が不可欠
  - (3) 金融緩和と公共投資の行方——バブルかスタグフレーション？
  
- (四) 消費税とTPP——格差・低福祉社会の助長か
  - (1) 消費税とTPPがもたらすもの
  - (2) 財政に頼れない深刻な格差——非正社員の処遇改善が不可欠
  - (3) 「国際会計基準」の導入と年次有給休暇——うつ病対策
  
- (五) 好転する世界の経済環境
  - (1) 超汚染と賃金高騰でも成長する中国
  - (2) 韓国の経済と社会の苦悩——他山の石
  - (3) 米経済回復でもアキレス腱——雇用と金融緩和
  - (4) ユーロ圏2期連続のマイナス成長だが徐々に明るさ